## ８．始業前点検

高所作業車の故障などを発見し、安全な作業を行うために始業前点検は欠かせないものです。　この項の末尾にチェックリストを添付していますので、このリストに則り運転の前には必ず点検を行ってください。

**！警告**

**正しく整備されていない高所作業車を使用することは死亡あるいは重傷につながる重大な事故を引き起こす場合があります。**

### ■取扱説明書

取扱説明書は必ず機械に常備されているよう留意してください。

図　取扱説明書ホルダー

### ■電気系システム

バッテリーは 6V240AH タイプが 4 個、車体左側のバッテリー内にあり、24VDC 電源を機械に供給します。

**！注意**

**たとえ低電圧の電気回路でも導体への接触による重大な事故の起こる可能性があります。電気系システムのメンテナンス時は十分に注意して行ってください。**

**！警告**

**充電中のバッテリーは爆発性のガスを発生しますので、注意を怠ると重大な事故につながります。　バッテリーの点検をするときは火気を近づけないよう十分に注意してください。また、バッテリー液は身体に有毒ですので、直接皮膚や目に触れないよう保護措置を取ってください。　触れた場合は速やかに治療を施してください。**

・　**バッテリー液量の確認**

バッテリーのキャップを外し、バッテリー液量を見てください。　各セルの液面がプレートの上端から 6 ㎜以内でないようであれば蒸留水を補充してください。

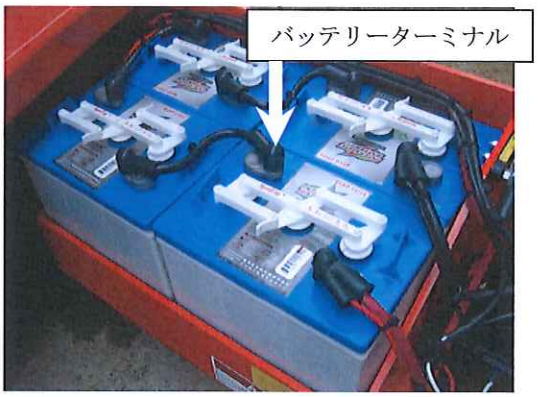


図　バッテリー

・　**バッテリーターミナル**

バッテリー上面のターミナル・ケーブル類が腐食したり汚れていないかチェックしてください。　汚れている場合はワイヤーブラシなどで清掃し、ケーブルはターミナルにしっかりと固定されているようにしてください。

**■充電器**

バッテリー切断スイッチを切った後、充電器を AC 電源につなぎ、電流計が 20A を表示し、バッテリーの充電が正常に行われているかを確認してください。

図　充電器

**■シザーアーム降下防止サポート**

作業床が上昇している状態で機械の点検・修理を行う時は必ずサポートを使用してください。

**！危険**

**シザースの昇降時は腕などの人体が挟まれないよう十分に注意してください。　死亡事故を含む重大な危険性がありますので、これらの構成部品の可動範囲と周りの人・物との距離が十分にあり安全が保たれているよう確認が必要です。**

サポートを使用するときは次の手順で行ってください。

1．下部操作盤から操作し、サポートが上下のアームピンの間隔に収まるまで作業床を持ち上げる。

2．サポートを下側に回し、下のピンに噛むような位置に持ってくる。

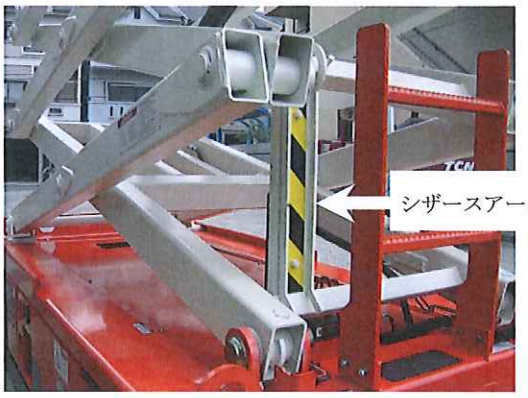


図　シザーアーム降下防止サポート

3．身体や腕などを挟まないように気をつけながらシザースがサポートでしっかりと支えられるまで作業床を降ろす。

4．取り外す時は逆の手順で行う。

**■ケーブル、リード線関係**

ケーブルやリード線はゆるんだり外れたりしていないか、被膜などの損傷がないかを確認してください。　特に曲がり部分は不具合が起こりやすい場所ですので入念なチェックが必要です。　その他の個所もルートをたどり、挟まっていないか、鋭利な個所にあたって摩耗していないか、目視チェックをしてください。

図　ケーブル、リード線

## ■油圧系システム

油圧は 7 馬力 DC モーターを動力とした油圧ポンプによって供給されます。

**！危険**

**高圧のオイルが噴き出すと人体にとって非常に危険です。　取り扱いには十分注意してください。**

作動油タンク、ポンプ、フィルター、バルブブロックなどはシャーシー右側の油圧系部品トレー上にあります。

- **作動油量**

作動油の量は作業床を完全に格納状態にしたうえでトレーにあるメーターでチェックしてください。　FULL と ADD の間にあれば OK です。

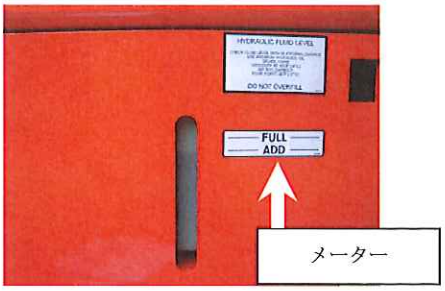


図　作動油量メーター

**！注意**

**作動油はメーカー推奨の物を使ってください。**

必要があればキャップを開け作動油を補充してください。　推奨オイルについては本マニュアルの機械諸元の頁をご覧ください。　頻繁に作動油を追加しなければならないようであれば、オイル漏れの可能性がありますので修理が必要です。

**！注意**

**トレーの開け閉めや油圧の関係で、キャップ部分にオイルがにじみます。**

**定期的に清掃をしてください。**

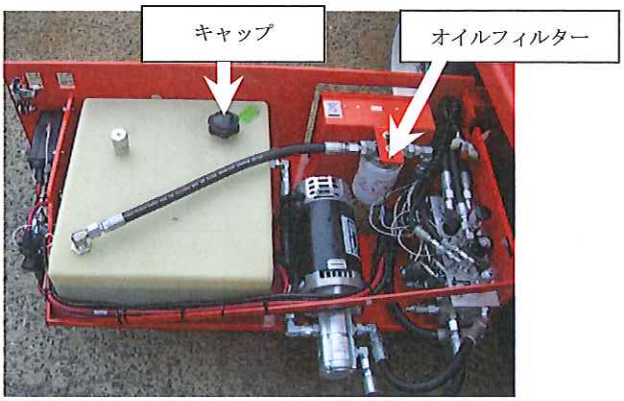


図　油圧系部品トレー

・　**オイルフィルター**

オイルフィルターも定期的な点検・交換が必要です。

・　**油圧ホース、ホースジョイント**

油圧ホース、ジョイント類が傷んでいないか、接続部からオイル漏れを起こしていないかを確認してください。　また、配管・ホースをたどり、引っ張られたり、強く曲げられたり、鋭利な個所にあたっていないか見てください。　ブラケット類にきちんと留っているか、バンド類が外れたりしていないかもチェックしてください。

・　**ホイールフリーバルブ**

ホイールフリーバルブはシャーシー後側のバルブブロックに取り付けてあります。　完全に閉じているか（時計回り締め）を確認してください。

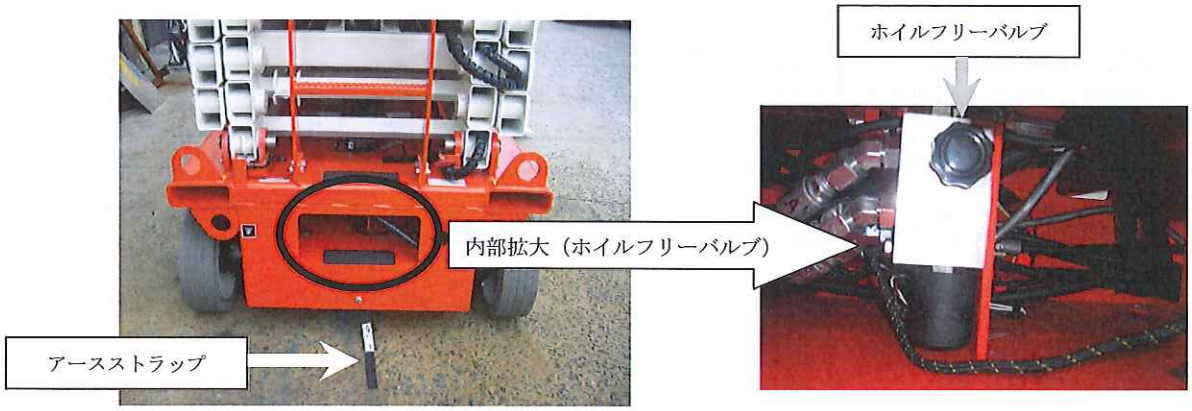


図　シャーシー後側にあるホイルフリーバルブとアーススストラップ

**■タイヤ&ホイール**

タイヤの外観が平滑で割れなどがないかをチェックしてください。　ホイールはボルトの欠落がないか、緩みがないかを点検してください。

図　タイヤ・ホイール

**■アーススストラップ**

静電気除去のためのアーススストラップが車体にしっかりと取り付けられているか、地面に届く十分な長さがあるかをチェックしてください。

■下部操作盤

作業床には人を載せず、車体側操作が正常に行われるかどうかをチェックしてください。

図　下部操作盤

**操作チェック**

下記の手順で操作を試みます。

1．バッテリー切断スイッチを ON にする。

2．緊急停止ボタンを引き出し、セレクタースイッチで下部操作を選ぶ。

3．昇降スイッチを操作し動きが正常であるかを見る。

**！危険**

**機械の可動範囲に障害物がないかを確認してから各操作を行ってください。**

4．バッテリー切断スイッチを OFF にして昇降スイッチで作業床が動かないことを確認する。

・　**緊急停止ボタン**

緊急停止ボタンを押し、全ての操作がシャットオフすることを確認してください。

・　**下降アラーム**

昇降操作を行い下降アラームが鳴ることを確認してください。

・　**脱輪時転倒防止装置によるインターロック**

この装備にも次の手順で点検が必要です。

1．左右の脱輪時転倒防止バーから地面までの寸法が 10.1 ㎝程度であることを確認する。

図　脱輪時転倒防止バー（バーが上がっている状態）

2．作業床が約 65cm 程度上昇したときにバーが自動的に降りて地面とのクリアランスが 2 ㎝程度になることを確認する。

図　脱輪時転倒防止バー（バーが降りている状態）

3．もう一度作業床を完全に下げ、今度は 3.8 ㎝程度の厚さのある板を下の図のようにバーの下に敷く。

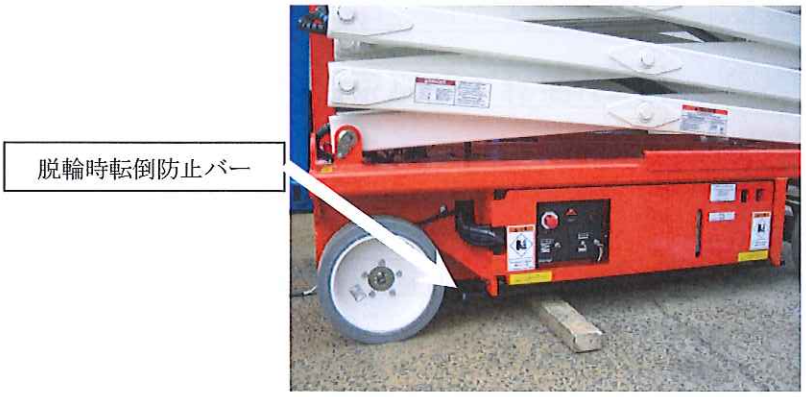


図　脱輪時転倒防止装置インターロックの作動点検

4．この状態で作業床を上げ、バーが板にあたって完全に降りないことで作業床の上昇が 2.1-2.4m でストップしアラームが鳴ることを確認する。

5．このテストを左右両側のバーについて行う。

このテストで異常が見つかった場合は絶対に機械を使用しないでください。

**警告！**

**安全装置が正常に働かない機械は非常に危険です。　死亡事故を含む重大な災害につながる可能性がありますので、これらの装置を改造したり無効にしたりすることは絶対に止めてください。**

**■緊急降下装置**

緊急降下装置を以下の手順で点検してください。

1．下部操作盤により作業床を最高位置まで上げ、緊急停止ボタンを押す。（作業床が降下できない状態にします。）

2．降下してくる作業床、シザースに注意しながらシャーシー後側にある緊急降下装置のハンドルを引っ張り、作業床が降下してくるかを確認する。（降下できたら異常なしです。）

3．降下操作が終わったら必ずハンドルを元に戻してください。

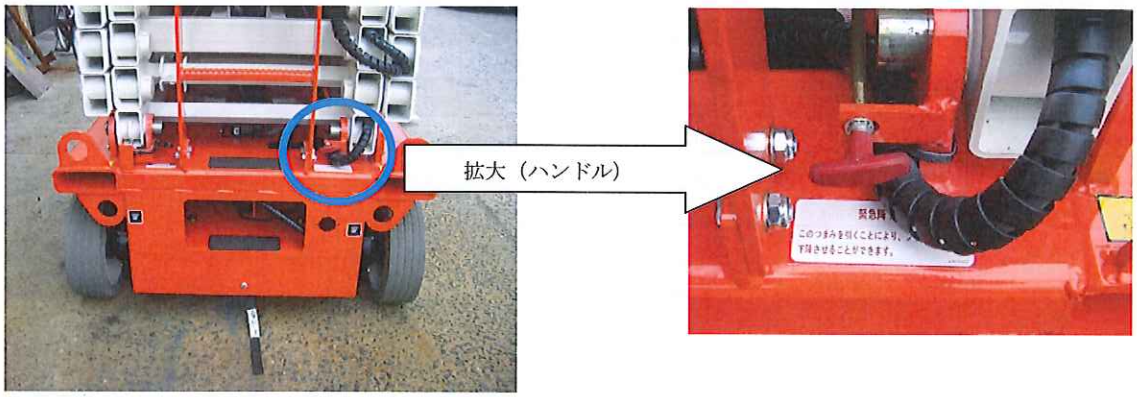


図　シャーシー後側にある緊急降下装置

**■昇降装置（シザース周り）**

昇降機能に関連する部分を点検します。

**・　シザース、ピンなど**

外観に異常な損傷、変形などがないかを見てください。　また、各部にある溶接個所に割れ、剥離など異常な所見が見られないかをチェックしてください。　大きな荷重がかかる部分に関しては特に注意深く観察してください。

**・　スライドパッド**

シザースの動きによってシャーシーのレール部分左右を移動するスライドパッドがスムーズに動くかを確認してください。

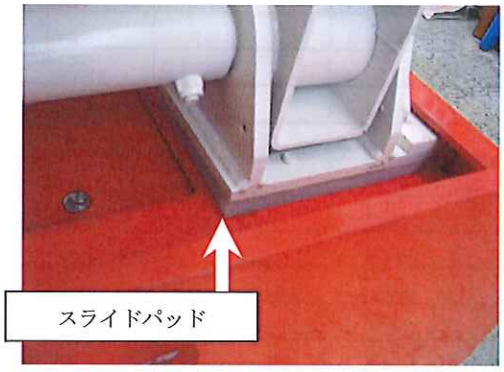


図　車体側スライドパッド

作業床を上げ、作業床の下側左右に位置するスライドパッドがスムーズに移動するかを確認してください。

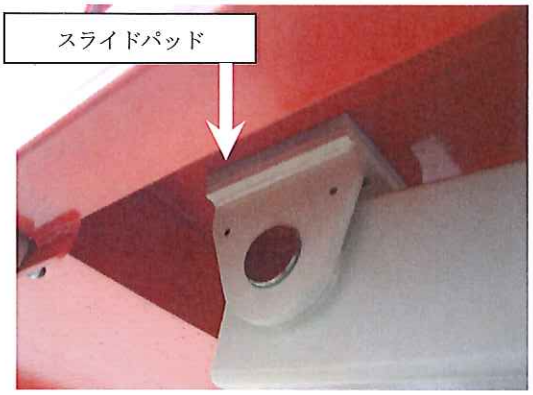


図　作業床側スライドパッド

・　**締め金具類**

締め金具類は脱落、緩みなどがないことをチェックしてください。

**■作業床周辺**

車体側(下部)で操作し全ての機能が正常であれば、作業床と上部操作盤の点検を行います。

・　**手すり**

手すりを構成する各レール、幅木などに損傷がないか、しっかりと取りつけられているかを確かめてください。　溶接部やボルト・ナット類についても取り付け具合、傷みや欠損がないかを点検してください。

図　作業床周辺

ゲートチェーンの取り付け具合、損傷がないかを見てください。　運転中に安全確保のできる状態であるかどうかの点検をしてください。

・　**延長デッキ**

延長デッキは左右のピンによってメインデッキに固定されており、ハンドルを押し下げるとピンがフリーになり延長デッキの張り出しが出来るようになっています

**！注意**

**ピンがフリーな状態ですと延長デッキは意図せず動くことがあり、大変危険です。　デッキが張り出している時も格納されている時もピンは確実にロックされていることを確認してください。**

延長デッキの張り出し時/格納時のピン/ハンドルの効き具合を見てください。
デッキを動かした時のローラーの動きがスムーズであるかを確認してください。

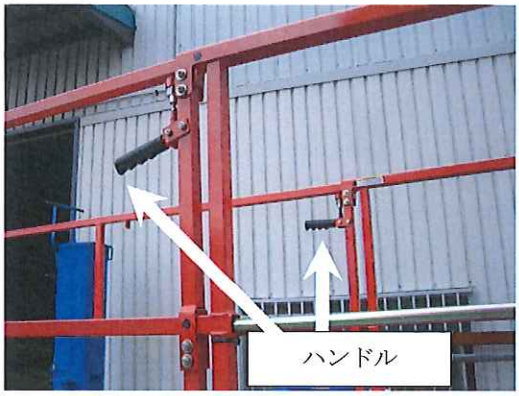


図　延長デッキ張り出しハンドル

・　**折り畳み式手すり**

折り畳み式手すりの各折り畳み部分にあるピンが所定の位置にあり変形していないかをチェクしてください。

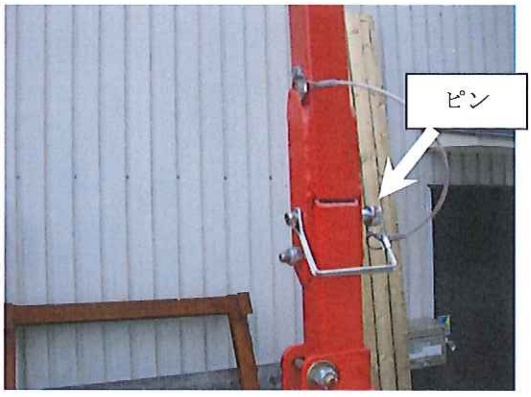


図　折り畳み手すりピン

・　**ブレーキ**

上部操作盤から運転しブレーキの効き具合を確認します。

ブレーキが働くのは以下のような時です。

・　ジョイスティックインターロックが解除されている

・　走行/昇降セレクタースイッチが昇降モードにあるとき

・　緊急停止ボタンが押されているとき

走行/昇降スイッチを走行にし、インターロックスイッチを握りながらジョイスティックを操作してブレーキの働きをチェックしてください。

・　**操作全般（試運転）**

次の手順に沿って試運転を行います。

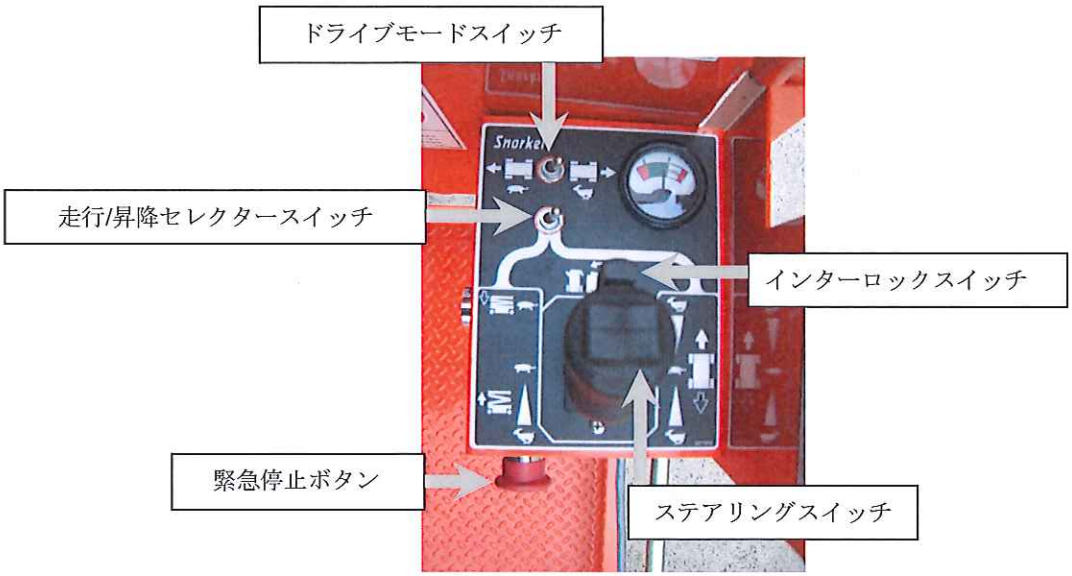


図　上部操作盤

1．バッテリー切断スイッチを接続し、下部操作盤の緊急停止ボタンを ON にしてセレクタースイッチで作業床側（上部）を選ぶ。

2．上部操作盤の緊急停止ボタンも ON にし、まずインターロックスイッチを握らずにジョイスティックを倒してみる。　もし、機械が動いたら異常です。

3．走行/昇降セレクタースイッチで走行を選び、今度はインターロックスイッチを握ってジョイスティックを前後に動かして走行に異常がないかを確かめる。ステアリングスイッチを左右に操作し前輪が正常にステアリングされるかを確かめる。

4．走行しながらインターロックスイッチを放したときにブレーキが効くか、また、走行しながら緊急停止ボタンを押したときにブレーキが効くか、ブレーキの効き具合を点検する。

5．昇降を選びジョイスティックを前後に動かして作業床が正常に昇降するかを試す。

・ **緊急停止**

緊急停止ボタンを押し機械が速やかに動きを停止するかを確認してください。

・ **ホーン**

ホーン（警報）が鳴るかをチェックしてください。

・ **降下/走行アラーム**

降下中、走行中にアラームが鳴っているか、確認してください。

・ **銘板類**

注意銘板などに損傷がないかも点検してください。

## 【始業前点検チェックリスト】

| チェック項目 | チェック要領 |
|---|---|
| **取扱説明書** | ホルダーに常備 |
| **電気系システム** | |
| バッテリー液 | 液量 |
| ターミナル | 外観、締まり具合 |
| ケーブル | 外観 |
| 充電器 | 作動状況 |
| **油圧系システム** | |
| 作動油量 | FULL と ADD の間にあるか |
| 油圧ホース、接続金具類 | 漏れがないか |
| ホイルフリーバルブ | 閉じているか |
| **タイヤ/ホイール** | 外観に損傷がないか |
| **アーススストラップ** | 確実に固定されているか |
| **下部操作盤** | |
| 各スイッチ、コントロール装置 | 正常な操作が出来るか |
| 緊急停止装置 | 正常な操作が出来るか |
| 降下アラーム | 正常に鳴っているか |
| **脱輪時転倒防止装置インターロック** | 正常に働いているか |
| **緊急降下装置** | 正常な操作が出来るか |
| **シザーアーム降下防止サポート** | 損傷、変形などないか |
| **シザース、ピン** | |
| 溶接個所 | 割れ、ひび等がないか |
| スライドパッド | 損傷がないか、動きは正常か |
| ボルトなどの締め具 | しっかりと留っているか |
| **作業床周辺** | |
| 手すり | 割れ、ひび等がないか |
| | 締め具は緩みなどないか |
| 延長デッキ | 動き、外観 |
| 折り畳み手すり | 取り付け具合、動きは良いか |
| ブレーキ | 正常に働いているか |
| 各スイッチ、コントロール装置 | 正常な操作が出来るか |
| 緊急停止装置 | 正常な操作が出来るか |
| 降下/走行アラーム | 正常に鳴っているか |
| ホーン | 警報が鳴るか |
| **銘板類** | 欠落などないか |

## ９．操作方法

この製品は下部操作盤・上部操作盤の両方で運転が可能です。

**！危険**

**この機械は電気的に絶縁されていません。作業床やシザース、または他の通電性の部分が高圧の電線に触れたり、近づいたりすると大変危険です。　重傷や死亡事故につながることになりますので十分注意してください。　本説明書内にある最小隔離距離の説明をよく読み作業を行ってください。　機械に体を挟まれたりして重大な災害を起こさないよう注意し、機械の可動範囲に障害物がないかを確認してから各操作を行ってください。　運転を開始する前に周りの危険性に十分配慮した作業計画を立ててください。**
**凸凹のない水平、堅固な路面上で運転しないと転倒の恐れがあります。　走行スピードなどに十分注意し、急な操作は避け、常に路面の状態には配慮した作業をしてください。**
**風速 10m/秒以上の環境で運転することは避けてください。**

最大積載重量は人員と荷物の合計重量です。　過積載には十分注意してください。
機械の運転に際しては必ず始業前点検を行い、バッテリー遮断スイッチを ON にしてから始めてください。

**■下部操作盤での運転方法**

下部操作盤は上部操作盤に優先します。　上部操作盤の緊急停止スイッチの ON・OFF のいかんにかかわらず、下部操作盤での操作は可能です。
下部操作盤では昇降操作のみが可能ですので、主に点検時、緊急時などに用います。
下部操作盤での運転は次のような要領で行ってください。

１．下部操作盤の緊急停止ボタンを引き出し、セレクタースイッチを下側(車体側)にしてください。

図　下部操作盤

２．昇降スイッチを上下に動かし、作業床の上昇下降を行います。

**■上部操作盤での運転方法**

上部操作盤での運転は次の要領で行ってください。

コントロールパネルを操作するときは必ず前方向に身体を向けて行ってください。　後ろ向きや横方向に向いての運転は事故のもとになります。

パネルは正しい位置にしっかりと固定された状態で操作してください。

図　上部操作盤のポジション

1．下部操作盤の緊急停止スイッチを ON にし、セレクタースイッチを上部（作業床側）にする。

2．作業床に乗り込み、ゲートチェーンを掛け、安全帯を掛ける。

3．上部操作盤の緊急停止ボタンを ON にする。

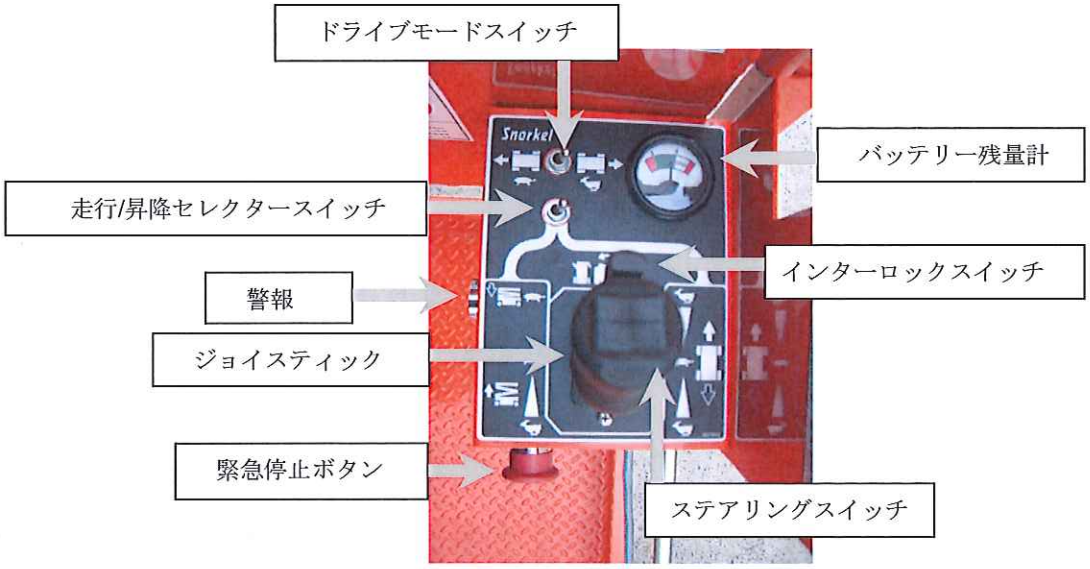


図　上部操作盤

4．機械の走行、作業床の昇降が行えます。

昇降操作においては次の点に留意してください。

- 作業床の昇降は走行/昇降セレクタースイッチを昇降にして行ってください。
- 上昇スピードはジョイスティックを倒す量に比例しますが、降下スピードは一定です。
- 昇降操作はインターロックスイッチを握りながら行います。　上昇は前に倒し、下降は手前に引きます。

**■走行操作**

走行するときはまず走行/昇降セレクタースイッチを走行にしてください。　ジョイスティックを前に倒すと前進、手前に引くと後進します。　ジョイスティックを倒す量に従ってスピードが変化します。　ジョイスティックの頭部にあるインターロックスイッチで左右の操舵ができます。

**！危険**

**機械は安定を失うと転倒の恐れがあり、重大な障害事故、死亡事故につながります。　作業床上昇状態で軟弱な地盤や水平でない地盤を走行しないでください。　どんな場合でも25%以上の傾斜地に立ち入らないでください。**

**！警告**

**無資格な運転者や、訓練が十分でない運転者が機械を操作すると非常に危険です。　運転に携わる人はこのマニュアルを熟読したうえで機械に貼ってあるステッカー類にも注意を払ってください。**

- NOTE:前後進しながらステアリングスイッチを押し続けると急旋回につながりやすくなります。　また、操舵輪は自動センタリングしません。　左右の切り替えをするときは一旦中立位置に戻してください。

**❖　ドライブモードスイッチ**

本機にはドライブモードを選べるスイッチが付いています。

- HIGH（ウサギのマーク）：通常走行モード
- LOW（亀のマーク）：25 度までの斜度を登坂するときの高トルク走行

HIGH モードの時、作業床の高さが 2.4m 以下では最大 3.2km/h で、作業床の高さが 2.4m 以上では最大 0.8km/h で走行します。

機械を車両に積載するときは LOW モードをお勧めします。

**！警告**

**安全装置が正常に働かない高所作業車は非常に危険な状態にあります。　安全装置を無効にしたり改造したりしないでください。　運転前にこれらの装置が正常に作動するかを必ず確認してください（始業前点検の項を参照）。　もし異常が発見された場合には修理が完了するまで絶対に機械を使用しないでください。**

**❖　傾斜センサーによるインターロック**

作業床が 2.1-2.4m 以上上がっていて車体が左右 2 度、前後 4 度以上傾いていると、傾斜センサーが働き、機械は上昇・走行操作をせずアラームが鳴ります。　その場合は速やかに作業床を降下させ平らな場所に移動してください。

**■作業床上での運転、留意点**

作業床に乗り込む時は十分に注意し、また乗り込んだ後はゲートチェーンをしっかり掛けていることを確認してください。　折り畳み式手すりの取り付け具合、延長デッキの固定の具合にも注意を払って墜落を防止してください。

**！危険**

**折り畳み式手すりを折りたたんだまま、作業床に乗り高所作業車を運転することは大変危険です。　絶対にやめてください。**

**❖　延長デッキ張り出し**

延長デッキの張り出し長さは約 90cm です。　張り出し、格納は作業床に乗り込み、左右にある延長デッキ張り出しハンドルを下に押し下げることでピンを解除して行います。　デッキがいっぱいに延長されピンがもう一度ロックされるまで、ハンドルを押し下げたまま前に押し出してください。

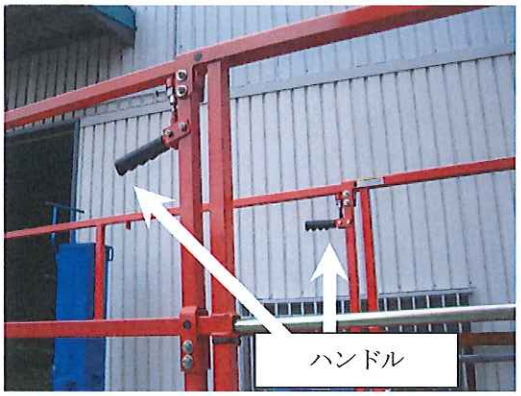


図　延長デッキ貼り出しハンドル

ピンがフリー状態のデッキは危険ですので注意してください。　ピンがロックされている時は、ハンドルは持ち上がります。

**！注意**

**ピンがフリーな状態ですと延長デッキは意図せず動くことがあり、大変危険です。　デッキ延長は機械が水平状態にある時にのみ行ってください。　また、デッキが張り出している時も格納されている時もピンが確実にロックされていることを確認してください。**

**❖　折り畳み式手すりの扱い方**

手すりを折りたたむことで機械の全高を約 63.5cm 低くすることが出来ます。

**！危険**

**手すりを折りたたむことは乗員の危険性を増す行為です。　十分に注意して行ってください。　折り畳み式手すりを折りたたんだまま、作業床に乗り高所作業車を運転することは大変危険です。　絶対にやめてください。**

1．ゲート部分右側にあるピンを抜きゲートを左手すり側に動かす。

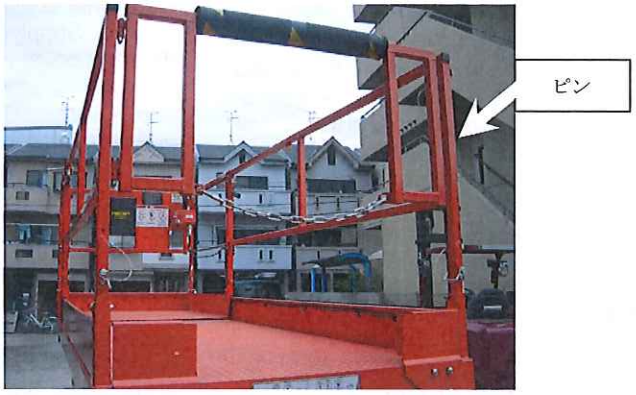


図　手すりゲート部分

2．上部操作盤を手すりに固定しているピンを抜き操作盤を床の上に置く。

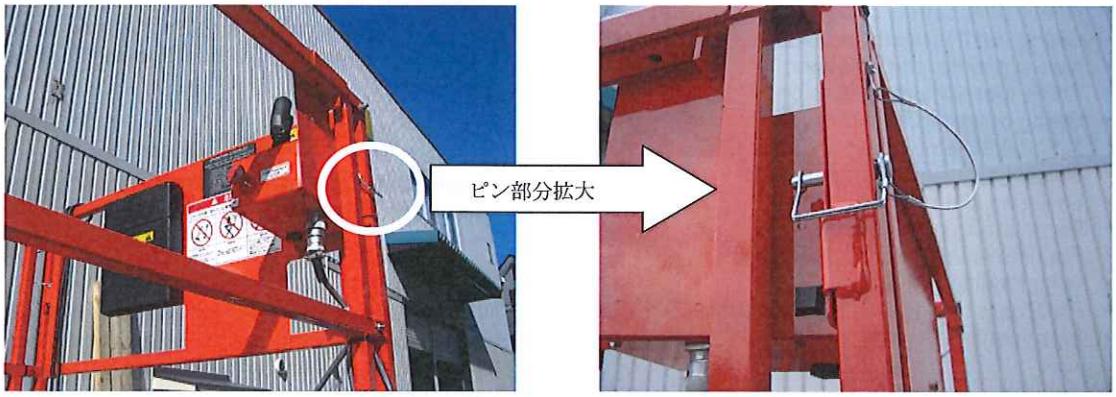


図　上部操作盤と手すり

3．フロントパネル部分を手すりに固定している左側にあるピンを抜き、フロントパネルを手すり右側に動かす。

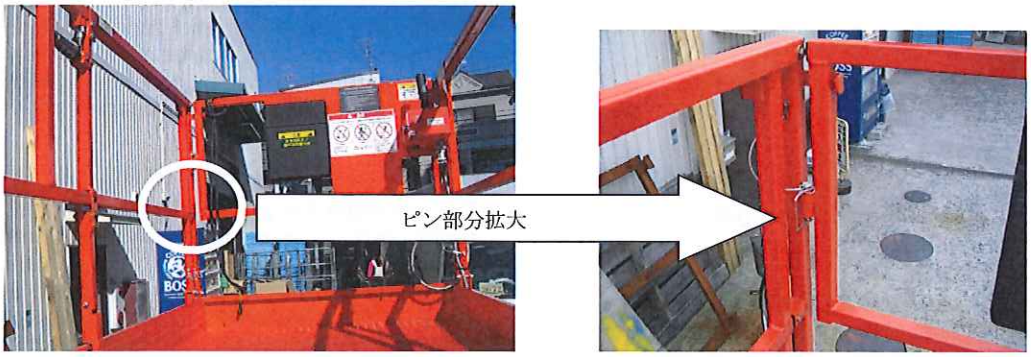


図　フロントパネル部分

４．手すり右側にある３つのピンを抜き、手すりを床の上に寝かす。

➢ NOTE：前側のピンを抜くにはデッキを少し(15 ㎝程度)延長する必要があるかもしれません。

**！注意**

**下の図のように、ピンを抜いて動かした手すりは固定できませんので、意図せず動くことがあり、大変危険です。倒す際は手を挟まないように十分に注意してください。**

手すりゲート部分

フロントパネル部分

図　作業床内から見た図

５．手すり左側にある３つのピンを抜き、手すりを床の上に寝かす。

６．手すりを建てる場合にはこの逆の手順で行います。

## 10. 保管・運送時の注意点

**■収納・保管方法**

第 3 者によるいたずらなどを防ぐために、機械の使用後は延長デッキを格納し(ピンのロックを確認)、作業床を降ろし、下部操作盤の緊急停止ボタンを OFF にし、バッテリー切断スイッチも OFF にしたうえで左右のトレー部分を閉じてください。

**■運送用車両への積載方法**

運送のために車両に積載する場合は、自走による方法、ウィンチを利用する方法、フォークリフトで持ち上げる方法、吊り上げる方法があります。

いずれの方法を選ぶにせよ、以下の点に留意して行ってください。

- まず機械を完全に収納状態（上記のとおり）にする。
- 搬送、積載と運送方法に関しては現場、車両などの状況を考え最適な方法を選ぶ。
- フォークリフトの選定、吊上げやウィンチによる積載、ラッシングに関しては適切な機材を選択する。
- 機械の重量を考慮し、十分な強度・容量のある機材を選定する。

**❖ フォークリフトによる搬送**

シャーシーの後側のフォークリフトポケット、あるいは横側の指定部分にフォークを差し機械を持ち上げてください。　その際必要以上にフォークを高く上げることは控えてください。

**！注意**

**左右からフォークを差す場合には必ず指定された部分に差し込んでください。　間違った場所を利用すると機械にダメージを与えることになります。**

図　シャーシー後側

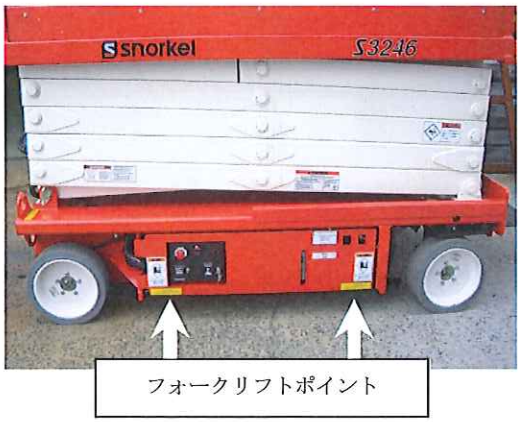


図　シャーシー横側

**❖ ウィンチを利用する方法**

自走による積載が困難な場合（スロープが斜度 25%以上の場所や滑りやすい場合など）にはウィンチを利用しますが、その場合にはホイールをフリーにする必要があります。

**！警告**

**ブレーキが解除された高所作業車は非常に不安定であり、慎重な取り扱いを怠ると重大な事故につながります。　また、ウィンチ作業が終了次第再度ブレーキを復帰させることを忘れないでください。**

ホイールを輪留めするなど、機械の逸走を防ぐ措置を講じた後、油圧系部品トレーを開けます。　バルブブロックのブレーキリリース手動ポンプを数回ポンピングしてブレーキを解除してください。

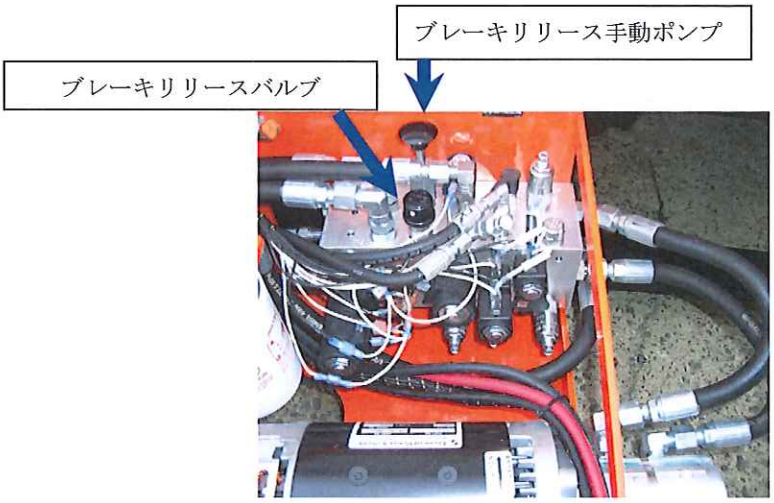


図　バルブブロック

シャーシー後側にあるドライブバルブ上に付いているホイールフリーバルブを反時計回りに回し全開にしてください。

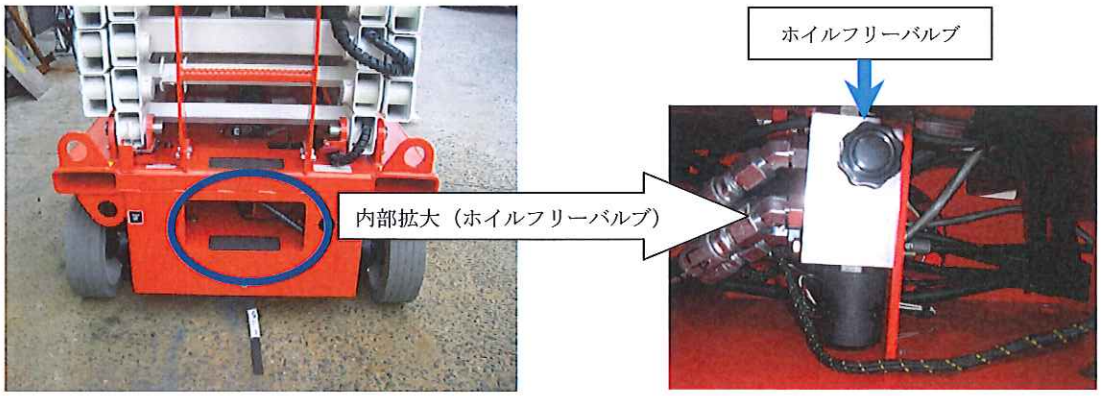


図　ホイールフリーバルブ

ウィンチをシャーシー前側のラグ部分に結束します。

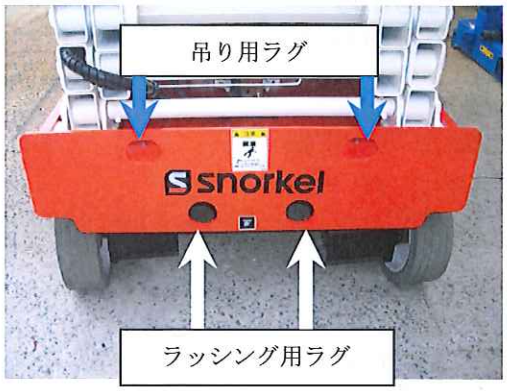


図　シャーシー前側

積載が終了したらホイールフリーバルブを時計回に回して閉め、小さく前後進走行をしてブレーキのセットを確認する。

### ❖　自走による積載

積載用スロープが 25%以下であれば自走による積載も可能です。　その場合、延長デッキがロックされていることを確認して行ってください。
積載するときは走行モードを LOW モードにして走行してください。
スロープ上を走行するときには脱輪しないよう慎重にステアリング操作を行ってください。

**！危険**

**機械は安定を失うと転倒の恐れがあり、重大な障害事故、死亡事故につながります。　作業床昇状態で軟弱な地盤や水平でない地盤を走行しないでください。　どんな場合でも25%以上の傾斜地に立ち入らないでください。**

### ❖　クレーンによる積載

クレーンなどで機械を吊り上げて積載する場合にはシャーシーの前後にある 4 点の吊り用ラグを利用します。　シザースや車体、作業床など、他の個所にスリングをかけると機械にダメージを与えることになりかねませんので注意してください。

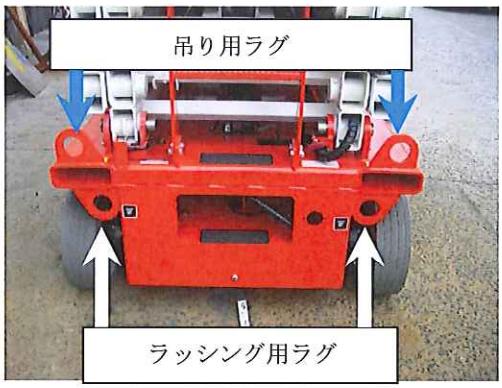


図　シャーシー後側

**！警告**

**機械を吊上げるときは機材の選定、機材の使い方に十分な注意を払ってください。　誤った機材、方法で吊上げ作業をしますと重大な傷害、死亡事故につながる可能性があります。**

吊上げの前に 4 点のラグにヒビなどが発生していないかを確認してください。　そのうえで機械の自重を考慮のうえ、最適なスリング、ブロック、シャックルなどを選定し慎重に吊上げを行ってください。　機材の選定、吊上げの方法はユーザーの責任範囲です。

ラグにはスリングを直接通さず、シャックルなどを利用してください。　ラグの角に当て布などをしてスリングを通す方法は効果的とは言えません。　また、スリングが機体に干渉しないよう適当な長さの吊上げ用のバーを用意することは非常に効果的です。

機体が水平を保ちながら吊上がるよう慎重にクレーンを操作してください。

**■車両上での固定方法**

車両への積載が出来たらラッシング用ラグを利用し機械を荷台に固定してください。

その際、脱輪時転倒防止バーの前部分と荷台の間に木製ブロックなどを敷くと走行ホイールのベアリングに過度な負荷がかかることを防ぐことが出来ます。

下部操作盤の緊急停止ボタンを OFF にし、バッテリー切断スイッチを切断してください。

**注意！**

**車両に積載後のラッシングをする場合、レバーブロック、チェーンブロック類などを締めすぎると機械に重大な損傷を与える可能性があります。**

## 11. 非常時の操作方法

故障により油圧システムが使えなくなった時、リフトシリンダーと走行モーターについては手動による操作が可能です。

昇降装置は緊急降下装置で降下させることが可能です。

走行機能に障害が発生しても牽引が可能です。

**■緊急降下装置による降下方法**

非常時はまず緊急停止ボタンで運転を停止してください。

可能な限り延長デッキは格納してください。

シャーシー後側にある緊急降下装置のハンドルを引っ張り、作業床を降下させます。

その場合、周りの状況やシザースに挟まれる危険はないか十分に注意してください。

降下作業を終えたら必ずハンドルを元に戻してください。

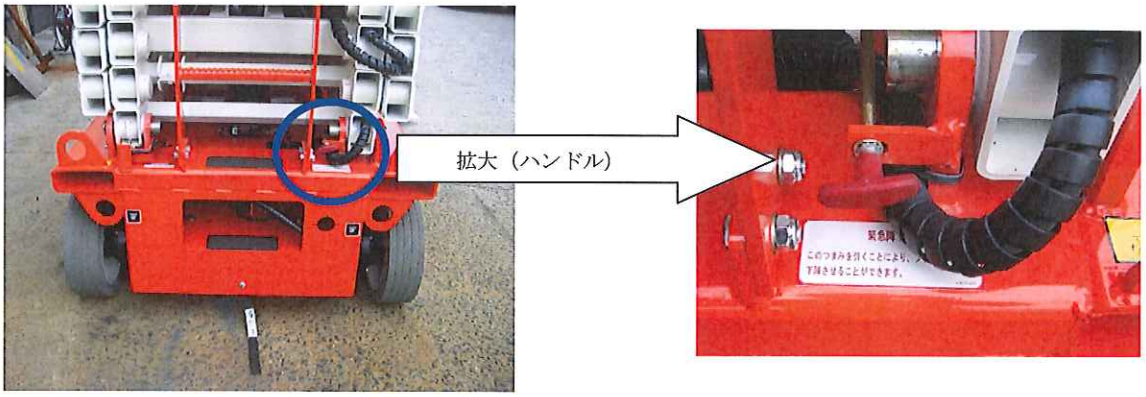


図　シャーシー後側にある緊急降下装置

**！危険**

**シザースやブームを動かす場合には人や物にぶつかったり、挟んだりしないよう十分に注意してください。　死亡事故を含む重大な危険性がありますので、これらのコンポーネントの可動範囲と周りの人・物との距離が十分にあり安全が保たれているよう確認が必要です。**

**■牽引方法**

ブレーキを解除することで機械は人力で動かしたり牽引したりすることが可能になります。

**！警告**

**ブレーキが解除された高所作業車は非常に不安定であり、慎重な取り扱いを怠ると重大な事故につながります。　また、ウィンチ作業が終了次第再度ブレーキを復帰させることを忘れないでください。**

バッテリー切断スイッチを OFF にします。　ホイールを輪留めするなど、機械の逸走を防ぐ措置を講じた後、油圧系部品トレーを開けます。　バルブブロックのブレーキリリース手動ポンプを数回ポンピングしてブレーキを解除してください。

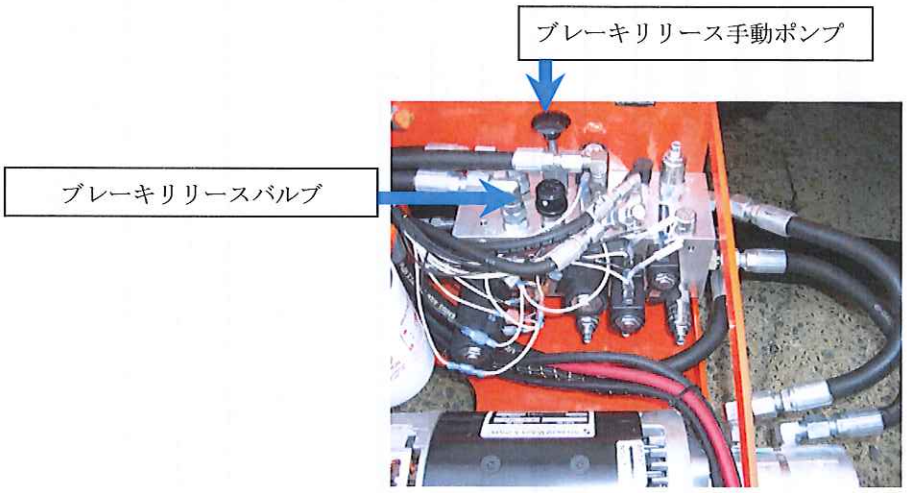


図　バルブブロック

シャーシー後側にあるバルブブロックにあるホイールフリーバルブを反時計回りに回し全開にしてください。

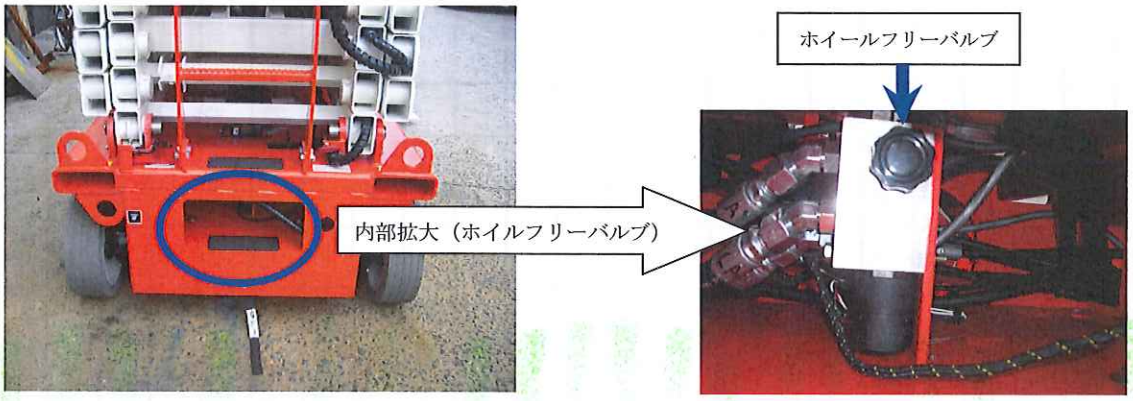


図　シャーシー後側にあるホイールフリーバルブ

牽引するときには時速 3.2km を超えないでください。
牽引が終了したらホイールフリーバルブを時計回りに回して閉め、小さく前後進走行をしてブレーキのセットを確認してください。

# 11. トラブルシューティング

Local Distributor:

タンフィールド・パワード・アクセス・リミテッド
東京オフィス
東京都港区芝浦 3-15-2 山本ビル 3F
TEL:03-5765-6841

タンフィールド・パワード・アクセス・リミテッド
関西オフィス
大阪府摂津市別府 1-18-27
TEL:06-6829-2050